

# 京都市外国籍市民施策懇話会 ニュースレター No.25

編集／発行：京都市外国籍市民施策懇話会事務局（京都市総務局国際化推進室）

## 2006（平成18）年度第1回会議開催

＜日時＞ 2006（平成18）年5月31日（水）午後2時から5時まで

＜場所＞ 京都市国際交流会館

第4期委員の任期満了に伴い、2006（平成18）年4月1日付で第5期委員を新たに委嘱し、第1回の会議を開催しました。委員12名のうち5名は学識経験者等から市長が指名した委員で、7名は外国籍市民から公募した委員です。第5期委員の任期は2008（平成20）年3月31日までの2年間です。

会議では、委員の自己紹介の後、互選により水野直樹委員を座長に選出しました。また、第1～4期において審議された内容を踏まえ、第5期懇話会における議題について各委員が意見を出し合いました。



### 京都市外国籍市民施策懇話会第5期委員（敬称略）

|      | 氏 名                   | 職名又は国籍（出身地）          |
|------|-----------------------|----------------------|
| 指名委員 | 井戸洋（イド・ヒロシ）           | 京都新聞社論説委員            |
|      | 高田光治（タカダ・ミツハル）        | 京都ユースホステル協会ユースホステル部長 |
|      | 朴実（パク・シル）             | 東九条マダン実行委員長          |
|      | リリアン・テルミ・ハタノ※         | 甲南女子大学助教授            |
|      | ◎水野直樹（ミズノ・ナオキ）        | 京都大学人文科学研究所教授        |
| 公募委員 | ◎成大盛（ソン・テソン）          | [韓国・朝鮮]              |
|      | ◎孫美幸（ソン・ミヘン）※         |                      |
|      | 劉仙姬（ユウ・ソンヒ）※          |                      |
|      | ◎褚英明（チュウ・エイメイ）        | [中国]                 |
|      | ◎趙没名（チョウ・メイミン）※       |                      |
|      | ムッサ・アダマ・デンベレ          | [マリ]                 |
|      | ◎ハッカライネン・ハヤサキ・ニーナヘレナ※ | [フィンランド]             |

◎は座長、※は女性委員 国籍（出身地）は、外国人登録法における表記による。

## 第5期懇話会における議題について各委員が意見を出し合いました。

懇話会は、1998（平成10）年に設置して以来、教育問題、福祉問題、留学生問題、地域社会での問題、情報提供の問題など、外国籍市民に関わる様々な問題について議論してきました。これらの内容を踏まえ、第5期懇話会で調査・審議する内容について、異なる国籍や生活背景を持つ委員から、様々な意見が熱心に出されました。また、前期と同様に議題ごとに担当委員を決め、その報告を踏まえて審議を行うこととなりました。

### 各委員の意見

- 在日コリアンの世代交代が進み、現在、在日4世の子どもたちが学校で学んでいる。子どもたちを取り巻く状況が変化している中で、日本の学校に在籍する「ダブル（二重国籍）」の子どもたちに対する教育を含めた教育の在り方について議論したい。
- 民族学校の必要性和、厳しい運営状況について報告したい。
- 新たに来日し市内に定住している「ニューカマー」の子どもたちに対する教育の実態について、日本語指導の問題や、教育現場での子どもの名前への扱われ方などを中心に調査し、報告したい。
- 外国籍児童・生徒の人権擁護やニューカマーの子どもたちの日本語指導について、現在の市の取組はまだ十分ではないと思うので、問題提起をしていきたい。また、この問題に対して学校の先生や市民団体などがバラバラに活動している状況になっているので、それぞれの活動を結び付ける役割を果たす人が必要だと思う。
- 市はすでに様々な取組を行っているが、十分な効果をあげているのかを見直すことが重要であり、日ごろ取り組まれている現場を実際に見ることが必要である。
- 京都市には留学生や就学生が多いが、大学や学校を超えて交流する場がないので、スポーツ大会など、広く交流できる機会を作ることが必要である。
- 外国籍市民が抱える問題を解決していくには、外国籍市民の声がもっと活かされることが必要である。行政や地域社会の中に多くの外国籍市民が参加し、意見が反映されるような仕組みができないか。
- 来日したばかりの外国人は、どこに行けばどのような情報を得ることができるのか分からず、制度を知っていればすぐに解決できる問題でも、抱え込んでしまっていることがある。
- 「京都市生活ガイド」などの多言語パンフレットがあることを今日初めて知った。多言語で情報を提供していても、それを外国籍市民が知らないのでは意味がないため、どこで情報を得ることができるのか周知することが重要だ。

- 外国人の母親が地域社会や保育所などで孤立することが多いので、このような母親をサポートする方法を考えていきたい。
- 地域社会の中で問題を共有する場がないことが問題である。誰でも気軽に参加することができる交流の拠点が必要であり、区役所や公民館、児童館など公共施設を利用して何らかの仕組みを考えることができないか。
- 今後、日本の労働力人口が大幅に減少していく中で、外国人労働者が増加すると思われるので、ニューカマーの労働問題等について報告したい。

第5期懇話会では、各委員から出された意見を踏まえ、  
次の議題について審議することとなりました。

- ・教育問題（民族学校を含む外国人学校の問題、日本の学校で学んでいる在日コリアンやニューカマーの子どもたちの問題など）
- ・多文化共生のための地域づくり（外国籍市民の市政や地域社会への参加を促進する仕組みづくり、情報提供・相談体制の充実など）
- ・留学生の問題（留学生の交流機会の充実、留学生の就職支援など）
- ・子育てなど外国人女性の問題（子育て支援、外国人女性をサポートする仕組みづくりなど）

京都市は高齢・障害外国籍市民福祉サービス利用サポート助成事業を開始しました。

高齢又は障害のある外国籍市民は、認知症や身体状況等に加え、言葉の問題や日常生活習慣等の違いのため、十分な福祉サービスを利用できない状況があります。これらの方々には、外国語によるコミュニケーションの可能な者が橋渡し役となってニーズを把握し、必要な福祉サービスの利用につなげることが必要であり、懇話会でも、これまでこの問題について何度も議論し、提言を行ってきたところです。

そこで、京都市では、「高齢・障害外国籍市民福祉サービス利用サポート助成事業」を開始し、外国籍市民の日常生活における不安や悩みの解消を図るため、訪問相談や福祉サービスの利用支援を行う京都外国人高齢者・障害者生活支援ネットワーク「モア」への助成を実施しました。

※京都外国人高齢者・障害者生活支援ネットワーク「モア」事務所

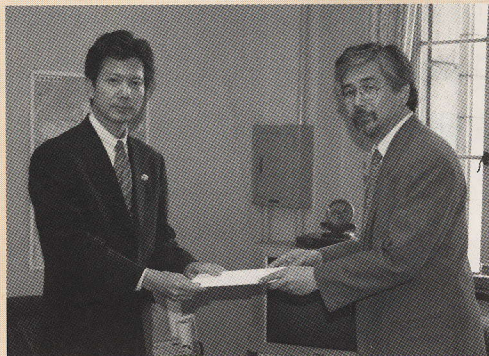
住所：京都市南区東九条北河原町5 電話：075-681-2721 FAX：075-681-2722

E-mail: kyotomorennet@guitar.ocn.ne.jp 受付・運営日時：月曜～金曜 10:00～16:00

# 2005(平成17)年度報告を提出しました。

2005(平成17)年4月26日(水),懇話会を代表して水野直樹第4期座長が,京都市長に提出する「2005(平成17)年度報告」を毛利信二副市長に手渡しました。

水野座長は,2005(平成17)年に審議した「多文化共生・交流及び留学生・就



学生の問題」,「多文化共生社会の実現に向けた取組」,「新定住外国人の問題」,「教育問題」について,会議の中で議論された内容を報告するとともに,それぞれの問題について京都市が取り組むべき課題等について提言を行いました。

なお,今回の報告には,初めて委員全員の「懇話会活動を終えての感想」を掲載しています。

※報告書を御希望の方は事務局まで御連絡ください。また,報告の内容は京都市総務局国際化推進室のホームページに掲載しております。

## ●事務局からのお知らせ●

本ニュースレターや懇話会に関する御意見などがございましたら,下記までお寄せください。

(懇話会の会議はどなたでも傍聴することができます。)

また,懇話会ニュースレターのバックナンバーを御希望の方は,下記までお問い合わせください。

### 京都市外国籍市民施策懇話会事務局

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地  
京都市総務局国際化推進室  
TEL075-222-3072 FAX075-222-3055  
ホームページ:<http://www.city.kyoto.jp/somu/kokusai/>  
Eメール:kokusai@city.kyoto.jp